

【ウェブサイト掲載用】

## 支部長あいさつ

長い梅雨が明けた途端に、猛暑となりましたが、会員の皆様にはいかがお過ごしでしょうか。

想えば、今年度は年度の始めから、新型コロナウイルス感染症の一件で、様々な予定が変更を余儀なくされ、関東支部でも4月の支部会をやむなく中止と致しました。

現在も、収束が見えない状況ですが、以前メールにてもお知らせ致しましたように、9月の支部会は、オンライン（ZOOM）にて9月19日（土）に実施致します。

今回は、初のオンラインでの実施となりますので、これを機会に、支部の研究会のあり方など、また新たに模索して参りたいと考えています。もし、当学会にご興味をお持ちの方がいらっしゃいましたら、これを機会に是非お誘いくださいませ。（下記参照）。

今回の支部会に関しましては、当初の発表者に変更が出ましたため、変則的に、支部長ミニコーナー（最新の理論や今後の萌芽的研究、ビジネス最前線などについて発表するコーナー）での発表者を2名と、ゲスト・スピーカー1名の構成となりました。

まずは、野村誠二先生より、ビジネスの最前線で話題となっている、スエットコミュニケーションについてお話をいただきます。この状況下で「健康」をいかに維持するかは、社会的にも大きな話題となっていますが、「健康で効果的なコミュニケーション」を考える貴重な機会にさせていただけると存じます。フロアとの活発な意見交換も楽しみです。

2つ目の発表として、Kheiron Group 社長でもある、Nathan Ramler 氏をゲスト・スピーカーとしてお迎えし、Multicultural (team) management についてお話いただきます。現在のコロナ禍でのマネジメントとしても話題となっている、ダイバーシティにも深く関連する、大変興味深いお話です。

最後に、再度支部長ミニコーナーとして、ソニーピクチャーズエンタテインメントの後宮昌樹氏より、「JBCA に社会人学会会員を増やすための課題と提案」についてお話いただきます。10月のJBCA 第80回全国大会に向けて、刺激に富んだ示唆をいただけることと存じます。

これを機会にJBCAの今後についても熱い討論を交わし、そしてそのまま、意見交換会（近況報告会）という名の懇親会に進み、この猛暑をも凌ぐ、さらに熱い研究会にしたいと考えておりますので、何卒ご参加のほどお願い申し上げます。

関東支部長 藤尾美佐

## <ZOOM 研究会ご参加の際の注意点>

2020年9月19日（土） 14時30分より

定員、100名となっております。

また、会員の皆様からのご紹介がありましたら、お知り合いの方に体験参加いただくことも可能です。ただしその場合は、当日のスムーズな運用のため、以下の3名のメールアドレスに、事前に出席者のお名前をお知らせいただければ幸いです。

支部長 藤尾美佐           misa\_f@toyo.jp  
支部長補佐 佐藤洋一       sato108@toyo.jp  
JBCA 事務局 野村誠二       seijinomura@nifty.com

ZOOM には、マイクをオフにしてお入りください。また、万が一のことを考えまして、当日録画させていただきます（そのため、ビデオのオン・オフも個々にご判断いただければ幸いです）ので、事前にご了承くださいませ。これは公開目的ではなく、滞りなく研究会が終わった際には、すぐに消去する予定です。（ただし、学会の PR のため、2、3 分の動画を編集するという企画もあります。その際には、必ずご本人に事前の同意を伺いますので、同意なく画像が残ることなどは一切ありません。）

ZOOM の使用にご質問がある場合は、上記、佐藤洋一先生までお問い合わせください。

なお、ZOOM 使用の際に必要なものは以下のものです。

- ・ PC もしくはスマートフォン、タブレット（スマートフォン、タブレットであれば、スピーカー、マイク、クロフォンのカメラは備え付けられています）
- ・ ネットワーク回線
- ・ スピーカー（PC 等備え付け、もしくは外付け）
- ・ マイク（PC 等備え付け、もしくは外付け）
- ・ カメラ（PC 等備え付け、もしくは外付け）マイク内蔵のカメラが販売されています。

接続テストは、右記の URL から可能です。       <https://zoom.us/test>

多くの方のご参加、心よりお待ちしております。

## 2020 年 9 月 第 112 回関東支部研究会報告：研究テーマと発表内容

日程：2020 年 9 月 19 日（土）

会場：Zoom によるオンライン研究会

午後 2 時 30 分開始   午後 5 時 15 分終了（予定）

**2:30 ～2:45   支部長挨拶および事務局からのお知らせ**

**2:45 ～3:15   発表者 1   （支部長ミニコーナー）**

**野村 誠二（東京富士大学大学院 客員教授）**

**題目：「スエットコミュニケーションンスポーツ体験を通じてのコミュニケーションの形成」**

**要旨：**スエット（汗）とネットワーキングを組み合わせたスエットワーキングが、ビジネスの現場で広まっている。スエットワーキングとは、顧客とともにサイクリングなどの比較的軽く、時間のかからないスポーツイベントに参加・体験することを通じて、親交を深め、情報交換を行い、人脈形成に役立terるといふものである。今までのビジネスにおけるネットワーキングといえば、ランチやディナ

ーあるいはゴルフなどを通じて行われることが多かったが、健康志向はもとより、食に対する好みの多様化や長時間の時間的拘束を避けたいという傾向が、スエットワーキングを広めている背景になっていると思われる。本発表では、このスエットワーキングの発想が、職場のような組織の中におけるコミュニケーションの形成にも役立てることができるのかということを発表者自身の体験をもとに報告する。

### 3:20 ~4:30 発表者 2 (Guest Speaker)

#### 1. Nathan Ramler, CFA. President of the Kheiron Group, an independent advisory firm

**題目：**Multicultural (team) management: searching for method to the apparent madness

**要旨：**This workshop explores the challenges and opportunities of working with multicultural teams. The session will start with an overview of team management and international business dealings. Then it will explore specific examples of the challenges and pitfalls a global work environment can contain. We live and work in a world that is increasingly connected, and technology makes human interaction easier and smoother. However, it is easy for us to forget that language and culture still play an important part in each individual's life and perception of the world around them. We may share common languages, such as English, but it is still all too easy to misunderstand the real meanings and intentions behind our communications. Over the past 25+ years, the speaker has been privileged to study, live, and work on several continents and for several companies. Both working with and managing international, multicultural teams have presented experiences and opportunities. The talk will explore examples of some successes, some failures, and some lessons learned. We each have unique positions and perspectives in this world, and the talk targets ways in which we can learn from each other and improve our abilities to communicate effectively and to work efficiently.

### 4:45 ~5:15 発表者 3 (支部長ミニコーナー)

後宮昌樹 (ソニーピクチャーズエンタテインメント)

**題目：**「JBCA に社会人学会会員を増やすための課題と提案」

**要旨：**ビジネスサイドの人たちを、もっと JBCA 会員に取りこめないか？そのためにはどうすればいいのか？本学会の会員を増やすことは長年の課題と聞いているが、今回はビジネスマンに絞って会員増加するための課題をビジネス・サイドから提案したい。

この学会の会員状況や現状をSWOT分析にかけ、マーケティング的な視点から客観的に考えてみた上で、ビジネスサイドから見た時に、この学会に興味を持つ点を見出す。その課題を色々な大学の先生たちによりアクションプランとして展開頂く。そうして、本学会として今後の産学共同での展開へ発展させることを考えるべきではないか？その勧誘策としてのアイデアを提案したい。

### 5:15 ~6:15 意見交換会 (懇親会)

#### 前回支部会について

2020年1月25日(土)に行われました、第111回関東支部会の発表テーマ及び概要を報告致します。

会場 東洋大学白山キャンパス 3号館3502教室

## 1. 近藤 豊彦 (元東京経営短期大学)

題目： 『衣食足りて礼節を知る。』 中文翻译：衣食足而知礼节 （日本語意識：生活が豊かになると、人は自然に礼節を弁わきま（辨）えるようになる。）

要旨： 中国春秋時代、斉の桓公が覇者に成るべく補佐した管仲が述べ、日本でも人口に膾炙している標題の諺があるが、生活が豊かになって初めて礼節を考えるゆとりが生まれる。そしてそのゆとりから、その地域・社会独特の文化的特性が芽生え、時の経過と共に、それが押しも押されもしない価値ある伝統文化へと昇華する。

それでは、伝統文化とは一体どういうものであろうか。ここでは、現に幾年か生活し見聞きしている中国と母国である日本の両文化—特に古代中国において誕生し日本には主に遣唐使等を通してはるばる伝来した文化の一つ・「七夕」文化—の歴史的変遷を通して比較対象としたい。

中国人の考える文化と日本人の考える文化の共通点と相違点を、日中友好の観点も織り交ぜながら、更には昨年厳粛な中で執り行われた「即位の礼」の歴史的観点をも考察に入れて、論考を進めたい。

<支部長ミニコーナー>

発表者： 坂本 柚希奈 （日本製鉄株式会社）

題目： 「若手社員から見た上司とのコミュニケーション」

要旨： 日本製鉄（鉄鋼メーカー）に勤務する 5 年目の一般職女性社員が、これまでの経験を経て感じた、上司とのコミュニケーションにおいてモチベーションが上がった例と下がった例を紹介する。さらに、部下から上司へのアプローチについて工夫していることも報告する。

\* 発表そのものは5から10分程度の短いものを予定しておりますが、その後の Q&A で、オフィスのコミュニケーションの問題点やボスマネジメントなどにまで話を発展させられれば幸いです。

## 2. Rab Paterson 先生 (東洋大学国際教育センター BEST プログラム主任講師)

題目： Presenting for Professionals: Don't get caught out by copyright

要旨： This workshop looks at how expectations of professional presentations has changed in the modern world. Initially the session will cover some basics of presentations planning, structure, and design. Then it will move on to design in more details and look at accessibility (to ensure everyone can enjoy the presentation maximally) and also introduce the concepts of Creative Commons, Public

Domain and Copyright for Educators of all levels. The easy availability and ease of downloading online multimedia information and materials is a boon for reception and consumption of information in presentations as it opens up many avenues that were not available in the pre internet period. The copyright law and ethics regarding what people can and cannot do with multimedia content after they access them is not quite so straight-forward. This presentation will ensure attendees will be able to learn how to properly use multimedia concepts and materials in an easy to understand way via the Creative Commons approach in a more hands on way by showing attendees how to find, use and reference different types of multimedia materials with different licenses properly in their presentations. Therefore attendees should bring a laptop if they do not want to use the Toyo University PC's.

### 会員出版物案内



著者 中谷安男 先生  
 書名 『経済学・経営学のための英語論文の書き方』  
 出版社 中央経済社(2020/6/23)



著者 柴田真一・鶴田知佳子 先生  
 書名 『英語で言いたい』日本語の慣用表現』  
 出版社 アルク(2020/6/29)

\* 会員の方の新刊情報があれば、お知らせください。

編集・発行 〒112-8606 東京都文京区白山 5-28-20  
 東洋大学 経営学部 藤尾美佐 研究室内  
 国際ビジネスコミュニケーション学会関東支部長 藤尾美佐  
 TEL 03-3945-7295 (直通) FAX 03-3945-7477 (教務課)  
 電子メール : misa.fujio@gmail.com / misa\_f@toyo.jp